

環境心理生理運営委員会 議事録 2015 年度 第 3 回

文責 大石

- A. 【日 時】 2015 年 11 月 19 日 木曜日 (17:30~20:00)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 西名大作 (主査)、辻村壮平 (幹事)、大石洋之 (幹事)、
土田義郎、楨究、宗方淳 順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 3-0 環境心理生理運営委員会議事次第 20151119
3-1 H27 年度_第 2 回議事録 (案) (2015.9.29) 西名修正
3-2 20151119_環境工学本委員会 (第 3 回) 議題
3-3 2016 OS 内容 (案) 改
3-4 2016 OS 他分野
3-5 環境心理生理運営委員会活動計画案 (2016)
※配布資料は、原則、オンラインストレージにより配布

E. 【報告事項】

1. 2015 年度 第 2 回環境心理生理運営委員会議事録 (案) の確認 (資料 3-1)

9/29 に開催された第 2 回環境心理生理運営委員会の議事録 (案) について確認を行った。
内容に関して指摘・意見はなかったため、正式な議事録とすることとして承認された。

2. 環境工学本委員会 (11/19) 報告 (資料 3-2)

第 3 回環境工学本委員会の内容で本運営委員会に関連の深い事項について西名主査から報告があった。以下に報告の内容を示す。

■各委員会の活動報告書について

各委員会の活動報告書の提出依頼があった。2016 年 2 月 15 日が提出期限となっている。
次回の環境工学本委員会が開催される 2 月 22 日より提出期限が前に設定されているため、環境心理生理分野の各委員会については、メール審議により各委員の承認を求めたい、提出することとする。

■委員の任期 (重任)、兼任数について

調査研究委員会の共通規程に、「委員の任期は 1 期 2 年以内とする」、ことや「本委員会運営委員会は 3 期まで」、「委員長、主査は 2 期まで」、「同一の本委員会の小委員会の兼任は 3 つまで」ということが記載されている。なお、「小委員会の兼任は 3 つまで」は、運営委員会、WG などは含まない。

現状、これらの規程に則って厳密に運用されているわけではないため、この状況の是正に向けての要望が挙がっている。本委員会の場で該当する委員のリストが回覧され、他の運営委員会においても多くの先生方が該当している状況。運営委員会 4 期以上はダメということになると、当運営委員会もかなりの人が該当する。(環境心理生理分野では 10 人程度)

急激な是正は現実的には難しい。本委員会としても徐々に何とかしていきたい、という考えだと推察される。委員長からも、小委員会にはオブザーバ参加でお願いしたいという要望があった。

宗方委員から、状況を是正するというよりも、規程を改正させるという方向に力を使った方が良さそうという意見が挙げられた。

■第 29 回環境工学連合講演会について

講師は、産総研の佐藤先生。

■大賞候補業績選考の申し合わせの改正について

昨年から選挙を実施しており、その選挙についての取り決めに改正した。

大賞候補業績選考については、ルールを厳格に決めなくても良い、という方向性で合意し、候補が多かった場合は決選投票を実施することとなった。

■大賞候補業績の推薦について

空気、音、設備の各分野からそれぞれ以下の先生方が推薦された。

設備 中原先生 元名大

空気 檜崎先生 元阪大

音 安岡先生 元東大

最終的には、中原先生を推薦することとなった。

■委員の推薦について

学会賞（論文部会）選考委員会委員候補は赤林先生が推薦された。

奨励賞選考委員会委員候補は、宗方委員、横山先生が留任され、残り 2 名は、音、空気からそれぞれ 1 名が推薦される。

■2015 年度大会（関東）若手優秀発表選考結果について

前回の運営委員会で推薦した 2015 年度大会（関東）若手優秀発表選考結果が発表された。

■2016 年度大会（九州）について

2016 年度大会（九州）で開催される OS は、新規に 5 件が追加された。前回運営委員会時点で 8 件あったので合計 13 件の OS が開催される。環境心理生理運営委員会では、OS テーマを「生理量・生体計測を活用した環境評価」として開催することとした。

研究協議会は、九州大学の尾崎先生が内容の検討を進めている。研究懇談会は、本委員会幹事の岩田先生が、国際的な内容をテーマとして検討を進めている。（10 年くらい前に同様の国際化をテーマとした企画があったとのこと）

若手優秀発表の実施要綱の改正については、そもそも実施要綱が必要か？という意見も出ていたが、全体的なガイドラインがあった方が良いという方針で合意した。

■2016 年度の予算配分について

各委員会におけるアクティビティ（シンポ参加者数、黄表紙数、など）にもとづいて配分しているが、2017 年度に向けて、何か意見がある場合は、2016 年度初に挙げて欲しいという要望があった。

環境心理生理分野の予算は、2015 年度予算の 37.6 万から 39.1 万に増額される見込み。

■シンポジウム実施報告、実施計画について

10 月 10 日、10 月 17 日に開催された、感覚知覚心理小委員会主催のシンポジウム実施報告を西名主査が行った。

10 月 17 日開催の「感覚知覚と環境デザイン」のシンポジウムに関して、Web での申込みが定員に達していたが、当日は来ない人が多かったことから空席が目立った。シンポジウムの参加者確保のために何か対応できないか、という意見を挙げた。（例えば、参加者数を確保するために Web の申込み数を実際の定員よりも増やす案など）

チュートリアル開催の際も定員に達していたため、申込み数を増やすことを事務局に相談したが、その対応には難色を示していた。

土田委員から、外部の申し込みサイトを利用するなどの案が提示されたが、学会側としては現状のシステムを使うことを推奨するだろうという意見が挙げた。

また、Web の申し込みシステムの導入によって、登録のみして来場しない人が増えたので

はないか、という意見や、そもそも Web の申込みシステムの導入で参加者数は増えたのか、という意見が挙がっていた。

■その他

本運営委員会と傘下の小委員会における予算執行状況は、運営委員会 58%、社会と環境心理小委員会 60%、感覚知覚心理小委員会 30%、環境心理小委員会 0%となっている。

宗方委員から、予算を使い切った後、余っている予算から使うのであれば12月の時点で手を上げる必要があるのか、という質疑があり、西名主査から、そのような要望は出ておらず、むしろ余りそうな委員会があれば早めに言って欲しいというインフォメーションがあったと回答があった。

3. 次年度 日本建築学会大会における OS の開催について（資料 3-3, 3-4）

2016 年度大会における心理生理分野の OS 開催については、西名主査が「生理量・生体計測を活用した環境評価」というテーマ、および主旨を本委員会に提出している。この OS に関して、どのような投稿が期待できるか議論が行われた。挙げた意見について、以下に箇条書きにて整理する。

- ・ 宗方委員から、現在秋田委員、佐野先生と実施している研究がうまく行けば、1 件出せそう、という意見が挙げられた。
- ・ 土田委員から club-epa のメーリングリストでかき集めてはどうか、という意見が挙げられた。
- ・ 西名主査から、こういったテーマに取り組まれている知り合いの先生方にお声掛けいただきたいという提案があった。また、去年の環境心理生理のセッションで発表をされた先生方で関連しそうな方も候補。
- ・ 宗方委員から、こういうテーマの時にキーパーソンとなる先生はいるのか？ という意見が挙げられたが、他の委員から、特にキーパーソンの先生はおらず、いつもバラバラと投稿されることが多いという意見が挙げられた。
- ・ 想定よりも多くの投稿があり、OS から漏れた場合は、OS の前にセッションを付けるという対応で過去は実施している。
- ・ 過去に実施した OS では、大井委員にテーマに関連した全体像をレビューして、議論の内容を整理する、という発表をやってもらったこともある。今回は、生理計測ということで、秋田委員にお願いしてはどうか、という意見が挙げられた。
- ・ また、感覚・知覚心理小委員会で扱うテーマに近いことから、松原委員や山中委員も、OS での議論の内容を整理するには適任ではないか、との意見が挙げられた。
- ・ いずれの先生方も、本日の運営委員会に出席されていないため、12/12 に開催される感覚・知覚心理小委員会の場で、議論していただくこととなった。
- ・ 土田委員から、大会の当日オーガナイズする人はいないのか？ という質疑があり、宗方委員から大会 OS は、投稿されたものをセクションするということにオーガナイズという意味があると回答があった。
- ・ OS での議論を整理する発表を今年度の大会で生理量の測定をされて発表していた長澤先生にお願いしてはかがか、という意見も挙げられた。
- ・ 投稿者の候補として、慶応大学 SFC のロボットに関する発表をされていた方々、測定器も新しくなっており、計画系の方も心拍、人の位置を測ったりしており、それらも対象になりそうという意見が挙げられた。

- ・ 投稿の募集については、まずは club-epa のメーリングリストで、インフォメーションをする方針となった。
- ・ OS での議論に関するオーガナイザーは、大井委員、松原委員、秋田委員に依頼する方針となった。
- ・ OS の選考に関しては、ホストとなる小委員会を中心とすることで合意した。今回のホストは、感覚・知覚心理小委員会となる。
- ・ 西名主査より、今後のスケジュールは、2016年2月に原稿募集、3月に応募締め切りのうえ選考する。1セッション4つが基本のため、最低4編の投稿が必要。オーガナイズドセッションを成立させるよう、協力いただきたいとの要望があった。
- ・ 土田委員から環境設計で開催される2件のOSにも関わっているため、他分野の様子もみながら対応するという報告があった。

4. 各小委員会・WGの活動状況、シンポジウム等行事開催の予定について（資料3-5）

■環境心理生理運営委員会

環境心理生理運営委員会についても活動状況、および次年度の活動計画の報告が必要だったが、前回の運営委員会では議論するのを失念していた。西名主査が締め切り直前に気が付いたため、活動状況報告書を作成のうえ提出された。

■環境心理小委員会

主査の楨委員から以下の報告があった。

- ・ 文化と環境 WG 楨主査不参加
- ・ 委員の方による話題提供のうえ、議論を進めている。話題提供は大野主査が指名している。勉強会のような雰囲気。
- ・ 次回は12/11に開催予定。
- ・ かわいいWGは、宇治川主査が今後、出版をしたいという希望を話していた。ハンドブックというイメージをお持ちのようであった。
- ・ 現在は、原宿のお店を見に行くという感じで進んでいるが、かわいいものそのものというよりは、かわいいと建物の関係者にどのような効果をもたらすかについて、ということに、少し方向性が変化しているように感じる。
- ・ 当初、宇治川主査も「かわいい」という枕詞がつく建物や空間をとおして、それを求める心が見えてくるのか？ ということに興味の主題に挙げていた。

■社会と環境心理小委員会

主査の宗方委員から以下の報告があった。

- ・ 前回、運営委員会以降では、2回の研究会を開催した。(10/16 辻村幹事による駅の音環境について、11/5 若林先生による子供を対象としたアンケート調査について)
- ・ 次回は12/18に川井先生を講師としてサウンドスケープについて講演いただく。
- ・ 松原委員：温熱環境、辻村幹事：駅の音環境、若林先生：子供を対象としたアンケート、聴取の手法、川井先生：サウンドスケープ、と色々と研究会をやっていくうちに全体像が見えてくると考えている。実践的な話と環境心理研究、生理の話が収斂していくのではないかと。

■感覚・知覚心理小委員会

主査の土田委員から以下の報告があった。

- ・ 10/10に開催したシンポジウムでは、参加者数38名。別途声をかけた2団体が後援となった。大阪開催で赤字にはならず開催が出来た。

- ・ 10/17に開催したシンポジウムでは、参加者数53名。内容盛りだくさんであったため、煮詰めた議論にはならなかった。司会の土田主査が、この分野でもまだやり残しがあるので、それに取り組んでいこう、という形で締めた。
- ・ 今後の予定としては、12/12に小委員会を開催。傘下の2WGも合同開催となる。白川先生、池上先生、竹原先生を講師とした研究会を開催予定。

西名主査から、今年度の小委員会活動成果報告の締め切りが2/15であるため、改めてそのスケジュールに合わせて各主査の先生方に依頼をさせていただくので、協力いただきたいという要望があった。

F. 【審議事項】

5. 特別研究委員会、若手奨励特別研究委員会の審議状況について

西名主査から、次年度の若手奨励特別研究委員会への応募に関して、各小委員会で議論された内容について、審議したいとの提案があったが、9/29の運営委員会で話題に挙げた後、各小委員会では議論できていなかった。

したがって、運営委員会でのフリーディスカッションとなった。挙げた意見について、以下に箇条書きにて整理する。

- ・ 研究委員会につく予算は、研究費というよりは旅費の性質が強い。但し、成果物は必要であるため、何かはしなければいけない。
- ・ これまでの事例では、その研究委員会のなかで、各先生がそれぞれやったことを、並べている印象。
- ・ 予算は年100万円程度が付く。人数制限は特にないため、5人でも良いし、10人程度いても良い。
- ・ 西名主査としては、こういった制度があるので、それを活用して、研究分野のポテンシャルが上がるのであれば良いが、必ずやらなければならないとは思っていない。あまり若い人に浸透していない印象を受けているので勧めているとのこと。
- ・ 宗方委員から、環境心理生理分野だとしても、もともと共通するテーマを持っていない場合は、年齢だけで集めても難しいと感じる、例えば、感覚・知覚心理小委員会の若手を中心とするなど、ある程度、共通の旗があるところで企画してはどうか、という意見が挙げた。
- ・ 西名主査より、次回の小委員会等で話題に挙げて、ご検討をいただきたい、と各小委員会主査への要望があった。

6. 環境心理生理分野におけるAIJESの可能性について

西名主査から、心理生理分野におけるAIJESの可能性に関して、審議したいとの提案があり、運営委員会でのフリーディスカッションを行った。挙げた意見について、以下に箇条書きにて整理する。

- ・ 環境心理生理分野での基準づくりということになると、何がどのように基準にできるのか？
- ・ 宗方委員から、小島委員と話をする際によく挙がる話題に倫理規程があり、大学にそれぞれの倫理委員会で調査の承認をもらう際に、役立つような基準が学会にあると助かる、という意見が挙げた。
- ・ 学会として、こういう調査の場合は、こういうことを守ろうという規定があれば役立つか。
- ・ 西名主査から、そういった基準を学会で提示するには、少しハードルが高いように感

じる。一方で、SD 法の標準的なものを作るなど、調査方法的な方向性もあるかもしれない、という意見が挙げられた。

- ・ 学会からの意見として、最近はあるものを作って欲しいという要望もある。講習会をやってほしいという意図。ただし、分野として、そういう基準を知らなければ、業務などに直接影響を及ぼす、というような内容でなければ、講習会には人は集まらない。
- ・ 調査公害という言葉もあるし、調査のあり方、実験のあり方を整理するか。
- ・ 心理的評価についても、場合によっては心理的な侵襲性がある可能性はある。例えば、住まいのことを尋ねて、過去を思い出してトラウマを感じるなど。
- ・ 基準として提示できるメリットのひとつとして、学内審査に一文が書けるとありがたい。例えば、審査をする側の人への教育にもなるのでは。例えば、医学の人はとても厳しいが、その分野ではそういったやり方で良いのだ、という感覚をもってもらいたい。現状の学内審査は、全員一致しないと不可という扱いなので、一番厳しい人の意見が通るスタイル。
- ・ 現状では、学会の論文査読の際に、特に調査に関して一文なくても審査してくれている。今後、入れなければならないという話になった場合に備えて、考えておく必要もあるか。
- ・ 建築学会では、他分野からアンケート調査の倫理規程に関しての話題は出ないので、環境心理生理分野で考えるべきか。
- ・ 西名主査より、こちらの件に関しても、次回の小委員会等で話題に挙げて、ご検討をいただきたい、と各小委員会主査への要望があった。

G. 【その他】

7. 環境心理生理分野の ML について

宗方委員のご尽力により、club-epa のメーリングリストが再興した。西名主査より、宗方委員に対してお礼の言葉があった。

現在の登録アドレス数は 79 件、2 つアドレスを登録している人もいるため人数ではないが、多くの人を登録させていただいた。登録に際してご協力いただいた各小委員会主査に宗方委員からお礼の言葉があった。

今回、環境心理生理分野のみならず、個人的な伝手で、計画系も 10 名程度登録している。また、古賀先生に社会福祉系の研究グループにもお声掛けいただき、20 年前の計画系と環境系だけだったのが、だいぶ変わってきた印象を受けた。

宗方委員から、メーリングリストは使えるようになったが、まだ誰も使っていないため、どんどん活用してほしいと要望があった。

8. 【次回の開催日程】

2016 年 2 月 22 日（月）17:30～19:30

以上